



「ひらほく新聞」で検索!

★感謝で継続11年★

http://www.hirahoku.com/

☆ぜひ、バックナンバーをどうぞ!

発行所 読売センター平塚北部(ひらほく) 山本 直 〒254-0013 神奈川県平塚市田村9-4-32 電話 0463-54-2807



「おせっかい愛」は山本が考えた愛語です



営業の神さまが笑うとき 高橋 恵



5つの教え

「思考より行動」、「知識より情熱」で人とつながる

①行動

5秒で行動しないことは成功も幸福もない

②スピード

「スピードは失敗に勝る」と心得よう

③情熱

常識で挑まない人の心は情熱で動く

④愛情

知識や経験を超える「愛情」を持つ

⑤人間力

「おせっかい力」のこと

★以下、2話をご紹介します

■行動エピソード

人の心を溶かすのは「おせっかいなほど」の「行動のみ」

まずは、相手の心をあたたため溶かさなくてはなりません。人脈もコネもない中、まずは、「104(電話番号案内)」で調べ、毎日テレアポを続けました。

ある一部上場企業の社長にアポが取れ、運良く面談してもらえましたが、あっさり断られました。

ところが帰り際、カッターで作業をしていた社長

が、誤って指を切ってしまったのです。そのまま会社を出たものの、どうしてもケガが気になった私は、薬局で止血剤や包帯を買って会社に帰り、お届けしました。社長はかなり戸惑ったお顔をされていました。

「ありがとうございます、ありがとうございました。」

それから半年後、その社長から連絡があり「あの時のお礼だ」と、CMの仕事依頼があったのです。

もし、あのとき「大きな会社だから、きつと救急箱もあるだろう。私がおせっかいを焼く必要はないかな」と業を屈けなかつたら、この仕事が舞い込んでくることはなかつたわけです。

目の前で相手がケガをしたなら、誰だって「大丈夫かな」と心配になります。いくら口で「大丈夫ですか?」と気遣っても、血が止まるわけではありません。無理にでなくとも、ちよつと自分が動くだけで相手の役に立てるのであれば、やらない手はないと思いませんか?

ここまで大きなアクシデントでなくても、お客様の様子をみて感じることはいくらでもあるはず。相手が身構えているなど感じたら「これ、どうぞ」とアポをあげて緊張をほぐしたり、これから飲み会だと聞いたら二日酔い防止ドリンクを差し入れたり。

感じたことがあれば、ぐずぐずせずに5秒ですぐ行動に移す。それが、相手の警戒心を解き、心を溶かすコツです。知識と言う武器を持つだけでなく、5秒で行動する武器も磨き上げてください。

■人間力エピソード

ピンチのときは

「笑顔で明るく

元気に前へ」

私がおせっかいを焼くのは、その人の笑顔が見たいから、というのがあります。笑顔には、まわりを幸せにする力があります。悲しい気持ちのときも、口角を上げるだけで「楽しい」「うれしい」と脳が錯覚を起し、ポジティブな気持ちになるそうです。そして、人からの好感度を高める効果もあり、笑顔はすべての基本なのです。

まわりに人が集まってくる人、「この人を応援してあげたい」と思われる人たちの共通点、それは、ピンチの時ほど、笑顔で前向きに進んでいけること。

平常時には、誰もが笑顔でいられますが、ミスが犯したり、トラブルに巻き込まれたりしたときは、なかなかそうはいきません。人から好かれる人というのは、そこが大きく違います。

大きな失敗をしてしまったときも、不機嫌顔で憂鬱な気分をまき散らし、まわりに気を遣わせるのではなく、「同じ失敗は繰り返さない」と心に決めて気持ち切り替え、笑顔でさつと次の客先へ。そんな前向きで明るい人のまわりに、人は集まってきます。

世の中は、人と人とのつながりでできています。親子関係や友達関係はもちろん、職場の上司や先輩、同期、取引先と、さまざまな関係の中で私たちは生きています。思わぬところから舞い込んでくる幸運、意外なタイミングで訪れる人生の転機は、こうしたつながりの中から生まれるのです。だからこそ、ピンチのときほど「笑顔で明るく元気に前へ」を心がけてみてください。そんなあなたを誰かがきつと見ていてくれます。(おわり)

コロナ禍の今こそ、人とつながることの大切さを説く恵さん。大事なものは、とにかく行動。即行動以上にスピードを伴った『即速行動』。そして、『石橋を叩く前に渡り切る!』。考える以前に、損得勘定抜きに相手の心を動かす『頭を光らせる前に足を光らせる』行動を。至極の名言たちをぜひ書籍にて。

2017年に引き寄せご縁の高橋恵さんは、今や日本一のPR会社として知られる(株)サニーサイドアップの創業者、そして「おせっかい協会」会長。これまで2冊の著書を紹介してきましたが、今回は有難く新刊の『営業の神さまが笑うとき』をご紹介します。恵さんの豊富な経験から、具体的なエピソードを交えながら伝える熱い思いは、営業職に関係する方のみならず、コロナ禍で先の見えにくい今こそ、必ずや、その「神さまの微笑みパワー」が、多くの方々に笑顔・元氣・勇氣となり届くことでしょう。幸せを呼ぶおせっかい活動をぜひ一緒に!

恵さんプロフィール

1942年生まれ。一般社団法人おせっかい協会会長。

3歳のとき父が戦死、26歳でシングルマザーとなった母のもと、3姉妹の次女として育つ。短大卒業後は広告代理店に勤務。同社を結婚退職後、2人の娘の子育てをしながらさまざまな商品の営業に従事し、トップセールスを記録。その後、40歳で離婚。42歳で当時高校生だった長女らと共に自宅のワンルームマンションで(株)サニーサイドアップを創業。そして、長女に託した同社はジャスダック、東証一部を経て2018年に東証一部に上場。60代は忙しく働く長女に代わって孫育てに精を出し、70代となった2013年には「おせっかい協会」を設立。全国各地の学校、商工会

おせっかいの原点

恵さんの「おせっかい」の原点には、子ども時代の辛い経験があるという。戦死した父亡きあと、一家を養うために身を粉にして働く母の姿、その苦しい生活の中で母が繰り返して唱えてくれた大切な言葉たち、そして、見知らぬ人から受けた温かい愛情……。詳しくは、裏面、感動のベストセラー書籍、致知出版社刊「1日1話、読めば心が熱くなる365人の仕事の教科書」に4月12日分として掲載された内容をぜひご覧下さい。◎今月は画面の大特集号です!

天知る、地知る、我知る

高橋 恵（サニーサイドアップ創業者・おせっかい協会会長）

私のおせっかいの原点には、子ども時代の辛い経験がありました。「何で戦死してしまったの。手がなくても足がなくても、生きて帰ってきてほしかった！」そう泣き叫ぶ母のそばで、10歳の私は、姉と妹と共に、一緒に泣いていました。

良家に生まれた母でしたが、幼くして両親を、大東亜戦争で夫を亡くしました。戦後始めた事業もほとんど倒産。手のひらを返したような世間の冷たさに晒され、押しかける債権者に家財道具一切を持ち去られました。母の指から父の形見の真珠の指輪を強引にももぎ取る姿がいまも目に焼き付いています。

母はこの時、一家心中の瀬戸際にまで追い込まれていたのでしょうか。しかし、それを子ども心に感じた時、ガタツという物音が玄関から聞こえたかと思うと、ガラス戸に一枚の紙切れが挟まっていた。そこにはこう書かれていたのです。

「あなたには三つの太陽(子ども)があるじゃありませんか。」

んか。今は雲の中に隠れていても、必ず光り輝く時があるでしょう。それまでどうかくじけないで頑張って生きてください」

その手紙を読み聞かせながら、母は、ハッと気がついて、ごめんね、ごめんねと謝って抱きしめてくれたのです。おそらく私たちの窮状を見かねた近所の方だったのでしょう。人間のちよつとした優しさに、人の命を救うほどの力がある！。この時の強烈な印象、そして一家を養うために身を粉にして働く母の姿が、私のおせっかいの原点となったのです。

しかし、苦しい生活は終わることなく、このままでは学校に通わせることもできないと、母は私を知人の家に預けることを決断。そして送り出された私を待ち受けていたのが壮絶な「いじめ」でした。空腹を我慢し、冬は霜焼けで十本の指がただれていても雑巾がけ。手をつけて謝っても、これでもかと足で頭を踏みつけられる……。

あまりの仕打ちにトイレで泣き明かすこともしばしばでした。その小窓から見えた空と、その中を自由に飛び交う鳥たちの姿、そして母に会いたいという哀しい思いは、いまでも忘れることができません。

「自由に大空を飛ぶ鳥のように世の中を自由に、自らの力で生きていこう、そして、人間として分け隔てない生き方をしよう」と十四歳の時に誓ったのです。

今思い返すと、その後社会に出てからの私は、子ども時代の辛い体験と、母や見知らぬ人から受けた温かい愛情に突き動かされるように幸せを追い求め、無我夢中でおせっかいをばら撒いてきたような気がします。

「天地を、地知る、我知る。どんなに貧しくなろうとも、心まで貧しくなつてはいけません」
「あなたには、あなたのいっばい、いいところがあるじゃありませんか」

苦しい生活の中で母が繰り返して唱えていた言葉です。母はその通り、本当に思いやりに溢れた人でした。無縁社会という言葉も聞かれますが、どんなに忙しくとも、人を想う心さえあれば、たった一言の言葉、たった一枚の紙切れでも、人を救うことができるのです。(おわり)

「人間を学ぶ月刊誌『致知』42年の歴史を振り返り、その出会いの中から365人の言葉を選びだし、1冊の本としてまとめた**致知出版社刊「1日1話、読めば心が熱くなる365人の仕事の教科書」**に掲載された4月12日分より

■2021年5月18日付け日本経済新聞 コラム「交遊抄」、高橋恵さんの長女、次原悦子さんの掲載記事をご紹介します。

世代を超えた友人

次原悦子

出会いは13年前の会食。そこにいたのは政界を引退する直前の小泉純一郎・元首相だった。お酌しようとした私を制し、「いいよいいよ」と当たり前のよう

に手酌で酒を飲む姿が印象的だった。それから気が合う数人の仲間夕食を共にするようになった。年齢も性別も異なる友人が集まる井戸端会議は貴重な場だ。

「子育ては、しつかり抱きしめ、そつとおろして歩かせる。歩き始めたら、そつと背中を押してあげなさい。」

会社で新人の頃から育てた社員が巣立った時、自分のもとを去っていくことに寂しさを覚えた私が小泉さんからもらった言葉だ。

深い愛情を持ち、子供が自ら歩み始めるのを待って静かに見守ることの大切さを説かれた。政治家として父として、多くの人を見届けてきた彼の子育て論は胸に響いた。社長として会社を率いていく過程で、多く

の人との出会いと別れを経験する。その度にこの言葉を思い出す。

小泉さんは誰でも対等に目線を合わせて話をする人だ。女性で社長に就く人がまだ多くない時代、「これからは女性の時代ですよ」といつも背中を押してくれた。自分の道を歩む自信になった。

氏の旧型のリモコンのような携帯電話からの着信履歴。今晩も、気の置けない井戸端会議がまた始まる。

(つぎはら・えつこ) サニーサイドアップグループ社長

高橋恵さんの思い

書籍のおわりは、「お金を残さない、仕事は残してもいい、人を残そう」と結ばれている。その自らの心の声は……。

「病院にも老人ホームにもお世話にならない。見返りを求めず、おせっかいをする」というもの。

子どもや孫に、お金そのものを残すのは毒にしかない。子どもたちにはお金を得るための知識や方法を、そして社会のためには、人と人がつながって回っていく仕事や会社を残す。

さまざまな経験から学んできた多くの知恵を次世代に残したい。おせっかいの先には、年

金など気にならないくらい、豊かな人生が待っていることを、若い人たちに伝えたい。

お金も大事だが、地位も名誉も何もいらぬ。この歳でも、いまだ真冬でも靴下は履かずに裸足で過ごしている。これからもずっと元気でいられて、この思い、エネルギーを届けて、1人でも多くの皆さんが笑顔になつてくれたら、こんなに幸せなことはない。とにかくいつまでも日本中、誰かのために動き続けたい。

愛める行動力の固まり、恵さんの究極の名言

「言つてみる、行つてみる、やつてみる」

編集後記

自分も「おせっかいやまちゃん」なる名刺まで作り、この10年程、目の前のあなたを笑顔にという「おせっかい活動」を続けてきた。お陰様でこのミニコミも、全国へも広まっている。かなり前になるが、世の中がほとんど「ガラケー」だった時代に、当時まだ少ない「携帯サイト」を立ち上げ、100名を超える読者の方に登録をいただいた。

情報のメール配信が主だが、最初の登録、設定の説明で、ご自宅へお邪魔した方もあった。そのうちのお一人、高齢のHさんご夫妻宅では居間でお茶をいただき、ミニコミや他印刷物等をずっと取ってあると、お褒めの言葉をいただいた。

初めてのメールのやり取りが始まり、暮らしの糧になつていったようだった。その後、ご主人が他界、ぜひ用件にと奥様から連絡、深く合掌させていただいた。それから奥様のご縁は続き、3年前始めた筆文字健康教室に有難く常連参加していただいていたが、昨春、突然の入院とのこと、連絡が途絶えた。

一人暮らしでも、とても元気な方だったのでずっと心配していたところ、今春、元気な声で電話が来た！退院して何とか歩けるようになったが、娘さんのところに世話になつているとのこと。電話で話せて本当嬉しそうだった。いつでもかけてきていいよ、と伝えて電話を切った。まるで自分の親のような感覚、こちらも胸が熱くなった。

自身のおせっかい性格は亡き父親譲りと自覚する。恩送りの使命として、有難くこれからも、損得ぬぎで人と人を愛ある心でつなぐ「おせっかい愛」活動を晴つて続けていきたい。